

# 名詞化の機能に関する日韓対照研究

金 廷珉

東北大学大学院生

kjm0630@linguist.jp

## 1 はじめに

韓国語は類型論的に日本語と同じ膠着語であり、形態・統合的に日本語と著しい類似性を見せる。しかし、一方では異なる点も見られる。本稿では「名詞化 (nominalization)」という現象を取り上げ、日本語と韓国語を対照する。名詞化とは動詞節・句を変換するプロセスであり (Givón 1990: 498)、特に東アジア言語において顕著に見られる (Yap, Matthews, and Horie 2004)。日韓両言語には名詞化に参与するいくつかの名詞化辞 (nominalizer)<sup>1</sup> が存在し、これらの名詞化辞には単独で文末に現れ文を終止する用法と、名詞化辞が格助詞、指定詞といった特定の文法項目を伴って一語化して振舞う用法が観察される。本研究では前者を「単独型」、後者を「格助詞融合型」と「指定詞融合型」の2つに分類してそれぞれの用法と機能について概観し、両言語の類似点と相違点を明らかにすることを目的とする。本稿の構成は以下のとおりである。2 節と 3 節ではそれぞれ日本語の名詞化と韓国語の名詞化の類型を紹介し、特徴及び機能を記述する。4 節では両言語の名詞化について対照を通して本研究で得られた知見をまとめ、なお以下では韓国語の表記に yale 式のローマ字表記を用い、その下にグロス、日本語訳を表示する。

## 2 日本語における名詞化の類型

日本語には名詞化に参与する、「もの」「こと」「わけ」「の」といった名詞化辞が存在する。本節では日本語における名詞化について大きく、(A)「単独型」(B)「格助詞融合型」(C)「指定詞融合型」の3つに分類してそれぞれの意味機能について説明する。

### (A) 単独型

単独型とは (1) に示すように名詞化辞が単独で文を終止する場合を指す。

- (1) a. だって知らないもん。(「説明、説明」)
- b. 展示物に手を触れないこと！(「(相手への)強い命令、指示」)
- c. 室内では靴を脱ぐの。(「説明、(相手への)確認」)
- d. 彼は何も言わないわけ。(「説明、(相手への)理由確認」)

(1) の括弧の中に示されているとおり、単独で現れる名詞化辞は「説明」「命令」など様々なモダリティの意味、語用論的機能を体現することわかる (堀江 2005, Horie forthcoming)。

### (B) 格助詞融合型

格助詞融合型とは、名詞化辞が「を」「に」といった格助詞と結合して、(2)、(3) のように接続助詞としての機能を担う場合を指す。

- (2) 来てくれたものを帰れとは言えないような気がする。

<sup>1</sup> 日本語では「形式名詞」、韓国語では「依存名詞」とも呼ばれるが、本稿では日韓対照の便宜上、「名詞化辞」に統一する。

(3) わかっている のに できない。

### (C) 指定詞融合型

指定詞融合型とは、(4)<sup>2</sup>に示すように、名詞化辞が「だ/です」という指定詞 (copular) と結合して一つの文末述語のように振舞う場合を指す。

(4) a. 人に親切にされたら、おれを言う ものだ。(当為)

b. 命が惜しかったら黙っている ことだ。(忠告)

c. 女には夫があり、彼もまた教師で、彼女と同じ時期四小で教えていた。つまり、二人は昔四小で職場結婚をした {のだ/わけだ}。(説明/意味の提示)

(4c) の「のだ」「わけだ」は聞き手に「説明/意味の提示」を表すという点で類似の機能を果たすが、後者の場合はその「結果」や「帰結」の「論理的必然性」が表される(両者の違いに関して詳細は宮崎他(2002)を参照)。次節では韓国語の名詞化の種類について述べる。

## 3 韓国語における名詞化の種類

韓国語にも名詞化に参与する多くの名詞化辞が存在する。例えば、動詞の連体形を伴う「kesl(「こと・もの」)」「cham(「ところ」)、動詞の語幹に付加される「-m/-um」<sup>3</sup>「ki(英語における to 不定詞、-ing 形の動名詞などと類似している)などが挙げられる。

### (A) 単独型

(5) に観察される「kesl」は動詞の未来連体形を伴って相手への強い命令の意を表す。一方、(6)における「um」(7)に見られる「ki」は文を簡条書きの形でメモを取る際に使われる修辭法として、最近、インターネットのバーナー広告などでの使用が顕著に見られる(金 2006)。歴史的に名詞化辞「um」は、「ki」よりその生成時期が早( Rhee forthcoming)、平叙文、疑問文などの文の種類に関係なく文全体を名詞化する機能を持つ。また、「ki」は「um」と違って過去形と共起できないという統語的な制約を持っている。

(5) Kamsaha-nun maum-ul ic-ci ma-l kes.  
感謝する一現在連体形 心一を 忘れる一名詞化辞 やめる一未来連体形 こと  
「感謝する心を忘れないこと！」

(6) Tonguyha-il.  
同意する一名詞化辞 「同意する。」

(7) Hoywen kaipha-ki.  
会員 加入する一名詞化辞 「会員加入する。」

### (B) 格助詞融合型

韓国語の名詞化辞「kesl」に「ul/lul」という対格助詞が後続して(8)、(9)のように「kel」という形で用いられる。(8)は発話時における話者の「後悔」を表すが、「kel」の後に、「kuly-ss-ta(そうだった)」という言葉が省略されていると考えられる。(9a)は「驚きや感嘆」(9b)は「推測」の意味を表す。ここで注目すべきことは、「kel」の前に現れる動詞の連体形の時制の違いによって、意味が区別されるということである。

(8) (寝坊して学校に遅刻して)

Ilcic ilena-l kel (kuly-ss-ta).

早く 起きる一未来連体形 kel そうだ一過去一終結語尾

「(直訳) 早く起きることをそうだった。」「早く起きればよかった。」

<sup>2</sup>(4a) 及び(4b)はそれぞれ野田(1995: 254, 257)から引用。(4c)は宮崎ほか(2002: 244)から引用。下線は筆者による。  
<sup>3</sup>動詞の語幹が母音で終わる場合は、「-m」が、子音で終わる場合は、「-um」が付加される。

(9) a. (お店で気に入った服が予想より高かった場合)

Nemwu piss-a-ŋ                    kel.  
とても      高いー現在連体形    kel      「とても 高いな。」

b. (有名ブランドの服について友達に訊かれた場合)

Anna ku os-um piss-a-ŋ                    kel.  
多分      その      服ーは      高いー未来連体形    kel      「多分その服は高いはず(高いと思う)。」

また、「um」は「ulo」(日本語の「〜」に該当)という格助詞、「ki」は「ey」(日本語の「に」に該当)という格助詞と融合して「理由」を表す連結語尾として機能する。両者は話し言葉より書き言葉においてよく用いられるが、「ki-ey」は詩・歌などで、「um-ulo」は定式化された揭示文・案内文などでよく用いられるという傾向が見られる。

(10) Ne-lul                    salangha-ki-ey...

あなたーを      愛する(語幹)ー名詞化辞ーに      「あなたを愛しているので(ために)...」

(11) Cwucha kongkan-i      pwucokha-m-ulo...

駐車                    空間ーが      不足する(語幹)ー名詞化辞ーに      「駐車スペースが不足しておりますので...」

### (C) 指定詞融合型

日本語と同様に、「kes(こと/もの)」「moyang(模様)」「pep(法)」などの名詞化辞は指定詞「-ita/-ipnita(だ/です)」と結合し「kes-ita」「moyang-ita」「pep-ita」のように一語化した述語として用いられる。(12)は先行文脈に対する「説明」、(13)は状況に基づく話者の「推論」、(14)は「当為」の意味を表す。<sup>4</sup>

(12) Na-n chwicik-ul hay-ss-ta-kwul                    Ton-ul pel-key toy-ŋ ke-ya.

私ーは 就職ーを      するー過去ー終結語尾ー引用      金ーを 稼ぐーようになるー過去連体形ー kes-ita  
「私、就職をしたの！お金を稼ぐようになったんだ。」

(13) (空が曇っているのを見て)

Pi-ka o-ŋ                    moyang-ita.  
雨ーが      降るー未来連体形      模様ーだ                    「雨が降る ようだ。」

(14) Pwucilenhan salam-i sengkongha-nun                    pep-ita.

勤勉な                    人ーが      成功するー現在連体形      法ーだ                    「勤勉な人が成功する ものだ。」

以上、概観してきた日本語と韓国語の名詞化現象を踏まえて次節では両言語の類似点と相違点について考察したい。

## 4 考察と結論

本研究では日本語と韓国語における名詞化現象を大きく3つに分類し、それぞれの類型の特徴を記述し機能を考察してきた。2節と3節で見たように日本語も韓国語も名詞化辞が単独または格助詞、指定詞と結合して複数の意味を担うということが観察された。「単独型」においては日本語の「こと」と韓国語の「kes」は動詞の連体形を伴い、「相手への強い命令」を表わすという点で、統語的・意味的類似性を見せる。しかし、日本語には、韓国語の「um」「ki」のように動詞の語幹に付加される名詞化辞は存在せず、特に「um」を使って、(15a)と(16a)に示すように、平叙文(15b)・疑問文(16b)などの文を名詞化する機能は日本語には見られないと考えられる。<sup>5</sup>

(15) a. Nayil hankwuk-ey ka-m.

明日      韓国ーに                    行く(語幹)ー名詞化辞      「明日韓国に行く。」

<sup>4</sup>(12a)は韓国語で書かれた小説『Ahop sal insaying (9歳の人生)』, p.175より引用。日本語の「のだ」が「んだ」という形態的变化を見せるのと同様に、韓国語の「kes-ita」は会話において「ke-ya」という形で用いられる。

<sup>5</sup>一部日本語の連用形または漢語動名詞が対応する場合がある(金 2006 を参照)。

- b. Nayil hankwuk-ey ka-pnita.  
 明日 韓国へ行く (語幹) ー丁寧 (平叙文) 「明日韓国に行きます。」
- (16) a. Pap mek-um?  
 ご飯 食べる (語幹) ー名詞化辞 「ご飯食べた？」
- b. Pap mek-ess-supni-ikka?  
 ご飯 食べる (語幹) ー過去ー丁寧ー疑問 「ご飯食べましたか？」

「格助詞融合型」においては韓国語の「kel」という形は、前接する動詞の連体形の時制によって「後悔」「感嘆」など様々なモダリティイとしての機能を果たしていることが観察される。また「指定詞融合型」においては(12-14)の日本語訳と比較してみると、日本語の「のだ、わけだ」に「kes-ita」、「ようだ」と「moyang-ita」【「ものだ」と「pep-ita」が部分的に意味的類似性を表していると考えられる。しかし、「kes-ita」の前に現れる動詞の連体形の時制に注目してみると、(17)のように未来連体形の場合は、話者の「推論」を表し(日本語の「だろう」または確信度の高い推論の場合は「はずだ」も対応可能)、(12)に見られるような過去連体形の場合は「のだ」の形式と対応していることがわかる。つまり、韓国語の場合は、「kes」という同じ名詞化辞が使われていても「kes」に前接する動詞の連体形の時制の違いによって別のモダリティイの意味を表すことになるということである。

- (17) Aphulo mwulka-ka olu-l kes-ita.  
 これから 物価ーが 上がるー未来連体形 kes-ita 「これから物価が上がるだろう/はずだ。」

今後の研究課題としては、指定詞融合型から派生されたのか、それともその逆なのか、その出現時期について通時的な観点を視野に入れた両言語における名詞化現象への追究が挙げられる。

## 謝辞

本研究は東北大学 21 世紀 COE プログラム「言語・認知総合科学戦略研究教育拠点 (<http://www.1bc21.jp/>)」の支援を一部受けて行われております。

## 参考文献

- 堀江 薫 (2005) 「日本語と韓国語の文法化の対照—言語類型論の観点から—」『日本語の研究』第 1 巻 3 号, 93-107.
- 金 延珉 (2006) 「名詞と動詞の連続性に関する認知言語学的研究—動名詞・名詞化構文の日韓対照を通じて—」修士論文. 東北大学大学院.
- 宮崎和人・野田春美・安達太郎・高梨信乃 (2002) 『モダリティ』新日本語文法選書 4, 東京:くろしお出版.
- 野田春美 (1995) 「モノダとコトダとノダ—名詞性の助動詞の当為的な用法—」. 宮島達人・仁田義雄 (編). 『日本語類義表現の文法 (上) 単文編』, 東京: くろしお出版, 253-262.
- Givón, T. (1990). *Syntax*. Vol. II, Amsterdam: John Benjamins.
- Horie, Kaoru. (forthcoming). "Grammaticalization of Nominalizers in Japanese and its Theoretical Implications : A Cognitive Study with Korean". *New Reflections on Grammaticalization 3*. Typological Studies in Language Series, Amsterdam: John Benjamins.
- Rhee, Seunggha (forthcoming). "On the Rise and Fall of Korean Nominalizers". *New Reflections on Grammaticalization 3*, Typological Studies in Language Series, Amsterdam: John Benjamins.
- Yap, F.H., S. Matthews, and K. Horie. (2004). "From Pronominalizer to Pragmatic Marker. Implications for Unidirectionality from a Crosslinguistic Perspective." In: Fischer, O. et al. (eds.), Up and Down the Cline. *The Nature of Grammaticalization*. Amsterdam: John Benjamins, 137-168.